

令和6年

第57回 夏季大学

日 時 令和6年8月25日（日）

AM 10:15 ~ PM 3:30

会 場 静岡市民文化会館 中ホール

一般社団法人 全日本煎茶道連盟

中村 羊一郎

(なかむら よういちろう)

1943 年 静岡市生まれ

1965 年 東京教育大学文学部卒業
静岡県立静岡高等学校教諭
静岡県史編さん室長
静岡県内高等学校長を経て

2003 年 静岡産業大学情報学部教授

2013 年 静岡産業大学総合研究所客員研究員

2022 年 静岡市歴史博物館館長 現在 同館名誉館長



専門 日本史学・日本民俗学
博士（歴史民俗資料学）
平成 27 年 三徳庵茶道学術文化賞受賞

著書 『番茶と庶民喫茶史』（吉川弘文館）
『お茶作り名人紀行』（羽衣出版）
『イルカと日本人』（吉川弘文館）
『ミャンマー いま、いちばん知りたい国』（東京新聞）
など多数

山田 吉彦

(やまだ よしひこ)

1962 年 千葉県出身 博士（経済学）

東海大学海洋学部教授、海洋コメンテーター
専門は海洋政策、海洋安全保障、海洋経済、
離島振興 等

1986 年学習院大学卒業後、銀行員を経て

1991 年財団法人日本船舶振興会（現日本財団）
に勤務、海洋船舶部長、海洋グループ長などを
歴任。勤務の傍ら埼玉大学大学院経済科学研究
科博士課程後期を修了。

2007 年東海大学海洋学部准教授

2008 年教授就任

2019 年～2023 年静岡キャンパス長（学長補佐）。

国土交通省海洋政策懇談会委員、東京都専門委員（尖閣諸島担当）、竹富町海洋
基本計画策定委員長、石垣市海洋基本計画策定委員会会長、今治市造船振興計画
策定委員長等を歴任。

八重山自然大使、日本沿岸域学会理事、公益財団法人国家基本問題研究所理事。

主な著書：日本の国境（新潮新書）、海賊の掟（新潮新書）

日本は世界四位の海洋大国（講談社+α新書）

完全図解・海から見た世界経済（ダイヤモンド社）

国境の人々・海洋国家日本の肖像（新潮選書）

ONE PIECE勝利学（集英社）

日本全国お魚事典（海竜社）、日本の海が盗まれる（文春新書）等



第57回 夏季大学

8月25日(日)

9:30 ~ 受付

10:15 ~ 開講式

10:30 ~ 第1講 中村羊一郎 氏

『番茶から煎茶へ』

ーアジアにおける日常茶の変遷ー』

12:00 ~ 昼食

13:30 ~ 第2講 山田吉彦 氏

『茶貿易から見た国際関係史』

15:10 ~ 閉講式

15:30 終演予定

全日煎の歌

一、この一碗の煎茶から

心と心 触れあつて

みんなの喜び生れます

清く 明るく さわやかに

集う仲間の煎茶道

二、この一碗の煎茶から

心と心 かよわせて

みんなの楽しさ生れます

玉露のあじも まろやかに

今日も相寄る煎茶道

三、この一碗の煎茶こそ

その色 その味 その香り

日本の心伝えます

世界の人にお煎茶を

幸せいのる煎茶道

番茶から煎茶へ

—アジアにおける日常茶の変遷—

静岡市歴史博物館名誉館長 中村羊一郎

- 1 お茶は何色？
- 2 「ちゃっきりぶし」の背景
安価な女性労働力 手摘み作業 茶摘み歌の世界
近代化の進展 茶鋏の普及 北原白秋が耳にしたリズムカルな音
- 3 お茶は飲み物か、食べ物か
東南アジアの Miang 中国の Cha
- 4 番茶の世界
戦国時代の『日葡辞書』 Bancha 上等のでない普通の茶
(上流階級の抹茶と対比)
粗放な製茶法 「蒸し」 「乾燥」
抹茶(碾茶製造の基本 新芽を蒸して焙炉で乾燥)
殺青と乾燥 わずか2工程 番茶製法と同じ
- 5 日常茶飯
朝茶 茶粥 奈良茶 庶民の食べ物
庶民の飲料として都市民にも普及
- 6 釜炒り茶と蒸し製煎茶
文人の教養と趣味 香り 色合い 淹れたときの色(濁った抹茶と対比)
永谷宗円の工夫 碾茶・番茶の製法のいいとこどり 急須の普及
煎茶 せんじちゃ → せんちゃ
- 7 お茶の社会的な役割
人と人を結ぶ
- 8 急須文化の危機
ペットボトル茶の普及 簡易な喫茶法
急須での飲用 江戸時代中ごろ以降の流行
流行は廃れる
緑茶の世界的需要は拡大中なのに 国際商品となったがためのコスト競争
茶産業の衰退 生産農家の減少 中山間地の過疎化 後継者不足
喫茶文化の復興と活用
茶は人と人を結ぶ 社会的な機能 「茶は文化なり」という認識が不可欠